社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会

2015／4／1　No.68
発行者：社会福祉法人　ミッドナイトミッションのぞみ会
本　部：〒293-0023　千葉県富津市川名1436番地

# 後援会の働き

理事長
木下　宣世

去る二月二十四日、望みの門紫苑荘の多目的ホールにおいて、望みの門京葉後援会の研修会が開かれた。参加者は三十五名。最初に井本義孝常務理事より「法人概要について」という題で、現在、望みの門がどのような働きをしているか、これからの課題は何か、また京葉後援会に期待する事等についての講演をして頂いた。

次に今回のメインテーマである「認知症について」紫苑荘々長である佐野　毅氏よりお話しを伺った。一同で認知症テストに取り組んだり、プロジェクターで画像を映しながらの分かりやすいお話しで、良い学びをさせて頂いた。このようにして京葉後援会では毎年一回現地を訪問して研修会を開き、現場の様子を見学したり、講演を通して学びを深めたり、職員の方々との交流を図る機会を持ってきたのである。

この望みの門京葉後援会とは主として県内にある日本キリスト教団の諸教会の会員たちで組織する後援会で既に四〇年以上の活動の歴史を有する団体である。現会長の石井錦一松戸教会牧師は第四代目であり約三〇年に亘って会長の任にあたっておられる。

京葉後援会は毎年六月に総会と特別後援会を開くが百名から多い時は二百名を超える参加者が与えられる。昨年の総会資料によれば二十一教会七百五十五名の方々が後援会員として名を連ねておられる。まことに心強い限りである。

さらに京葉後援会は毎年クリスマスに全国募金を行い、望みの門の法人に多額の献金をして下さっている。またこれまで入浴介助、理容、お琴の教授等々、具体的な奉仕活動も行ってきた。ただ、最近では会員の高齢化もあり入浴介助他これまで行ってきた奉仕活動を中断せざるを得なくなっていることは残念である。何とか現状に即した新しい形での奉仕活動を再開して頂けないかと願っている。

しかし、京葉後援会の働きはそれだけではない。目に見える応援だけではなく、目に見えない支援がある。それは祈りである。望みの門の働きのために、七百名を超える方々が祈っていて下さるなら、これ程力強い支えはないであろう。後援会の働きは物心両面に亘るのである。

望みの門の後援会は京葉後援会だけではない。東京望みの門にも熱心な後援会がある。また、湊地区にはかずさの里の働きを支援

するピーターパンの会という後援会が地元の方々によって作られている。この会も有力な援助をして下さっている。

　このように望みの門の働きは背後にある多くの後援会員の物心両面に亘るお支えによって営まれているのである。そのご支援に心から感謝し、これからもお支え下さるよう心からお願いする次第である。

# 法人事務局便り

常務理事（事務局長）　西尾　建

　二〇一五（平成二十七）年度のスタートにあたり、過日開催されました理事・評議員会におきまして事業計画及び予算につきまして原案通り承認されました。

　今年度の計画の中で特筆すべきものを少しご紹介させていただきます。新規事業として生活困窮者自立支援法の施行に伴い福祉事務所の設置単位に整備することが義務付けられた相談事業を君津市から当法人が受託して運営を開始することになりました。また、来年度の開設に向け千葉県で初めてとなる情緒障害児短期治療施設（児童心理治療施設）の準備が本格的に開始されます。

MOODY INTERNATIONAL　UKAS QUALITY MANAGEMENT

　組織強化の計画として二〇〇七年に取得したＩＳＯのシステムを全施設・事業所において取り入れ活動していくことといたしました。また、近年の内部コミュニケーションツールとして導入したグループウェア（情報共有システム）や電子化の流れから法人全体のバックアップシステムを強化いたします。

　大きな課題の一つである人材の確保については、新規学卒者の安定的な採用に繋げるため法人独自の奨学金制度と外部奨学金の返済支援制度の運用を開始いたします。これから更に安定的な採用と計画的な人材育成が望まれます。

　種々の課題がございますが、今年度も総合福祉施設の法人として各事業が連携を図りながら一体的な運営を心がけ創立の理念であるキリストの愛の実践として用いられますよう目指してまいりたいと考えています。

東京望みの門　自立援助ホーム　マナの家

# お母さんになったMちゃん

指導員　長原恵理子

　マナの家では、昨年退寮生のベビーブームを迎えました。四人の退寮生に赤ちゃんが与えられたのです。

　Mちゃんはその中の一人です。八月に体重二九一四ｇの元気な女の子を出産し、名前をNちゃんと名付けました。Mちゃんは、在寮中はフルタイムで働く事が困難で、退寮後の一人暮らしでは、自炊は全く出来ず、食事は一日一食くらいしかとらず、カップ麺のお湯を沸かすのも面倒がる子でしたから、出産は出来ても子育てが果たして出来るのだろうかと私たち職員は大変心配しました。そこで児童相談所に相談し見守りを御願いし、Mちゃんには福祉に行き援助をお願いするよう勧めました。出産前から保健師さんが関わって下さり、無事出産後は、乳児院でのショートスティなどの手厚い見守りや配慮をして頂き、母子分離されることなく、元気に親子二人の生活を続けられています。

　そして、私達職員の心配に反して、出産前のMちゃんからは想像もつかなかったことがおきています。親子で暮らしやすい部屋に転居し、炊飯器を買い初めてご飯を炊き、自分で食事の用意も出来るようになったのです。以前は、自分の入浴もままならなかったのに今では毎日Nちゃんと入浴し、離乳食まで作れるようになったのです。また、マナの家に

は困ったことがある時にしか顔を出さなかったのですが、今では毎月のオープンハウスにNちゃんを連れて遠くから必ず参加するようになったのです。Mちゃんにとって、Nちゃんは守るべき存在、かけがえの無い大切な家族なのです。新しい家族の誕生と周囲の温かな支えが、Mちゃんを劇的に変えることになったのだと思います。

　この素晴らしい出来事を経験させて頂き心から喜び感謝すると共に、勝手な思い込みや決めつけの危険性を知らされ反省させられました。人は変わり得る存在であるということを忘れず、新しい年度も、「成長させてくださるのは神様」という御言葉を信じ祈りつつ神様から託された子供達の歩みを見守り支えるものでありたいと思います。

婦人保護施設　望みの門学園

## 退職にあたり思う事

事務員　森　加代子

　紫苑荘二十一年、学園六年と二十七年間、勤務させていただきましたが、今年度末にて退職する事となりました。

　多くの人に助けられ、永年務められました事を心より感謝しております。

　思い起こせば、福祉施設の知識も無いままに就職しましたので、最初は一般企業とは違う事もあり戸惑いました。お誕生会や季節の行事等いろいろありますがバザーの盛大さには驚かされました。

　最近はバザーやフリーマーケットがあちこちで開催されてますが、まだバザーが珍しい時代でしたので、沢山のありとあらゆる品物が献品されて、多くの人が早朝より来てくださる事にも地域の人達に支えられている施設ならではの催しを強く感じました。又、ボランティアと言う言葉が根付く前より教会の方が、ご奉仕に来てくださってます。他者の為に自分の時間と労力を捧げる事は本当に誰にでも出来る事ではなく頭が下がります。

　色々な思い出はありますが忘れられない事があります。紫苑荘には終の住処として入所される方がいらっしゃいます。朝礼で昨日の報告を聞くたびに最後の時が近いのではないかと思っていた方がいらっしゃいました。

　その方が、弘人先生にお祈りをお願いしますとおっしゃり先生が来てくださいました。

　お部屋の中での様子は知る由もありませんがお祈りしていただき充実した時間だったのでしょう数日後に昇天されました。

　とても清らかなお顔で、こういう最後もあるのだと深く心に刻まれました。

　最後に望み会のますますのご発展を祈念する次第です。

養護老人ホーム　望みの門楽生園

## ソフト食への取り組み

栄養士　小林菜津美

　給食サービス室で今一番力を入れているのは、ソフト食への取り組みです。ソフト食とは、咀嚼や嚥下が困難な方へ提供する新しい食事形態の一つです。刻み食のような誤嚥の危険も少なく、ミキサー食のような見た目とも違い、形も味付けも通常の食事に近い状態で提供する食事の事です。私も昨年、高齢者福祉施設協会で行われた研修会に参加させて頂き、講義と実際にソフト食の調理を勉強してきました。いざ作ってみると講師のように手早く上手に作るのはとても難しく、また、ただミキサーにかけたものを専用のゲル化剤で固めるだけと思っていたので、味付けや成形にもアイデアや工夫がないとマンネリ化し

やすくなってしまうなと感じました。研修会へ参加後、利用者様の中でソフト食なら食べられるという方がおられたので、練習を兼ねて何度か挑戦してみました。そして給食サービス室では、今年に入りお正月のおせち料理、そして行事食のお祝い膳でソフト食の提供を始めました。実際に普通食から展開させて作ってみると作業工程の時間配分や食材によっては固まらなかったり、切り方、盛り付け方などまだまだ試行錯誤の状態です。しかし、利用者様が全量食べて下さるのをみるととても嬉しく思います。特に、普段少量しか召し上がらない方がほとんど食べて下さるととてもやりがいを感じます。

今後は、普通食と並行して調理を行えるか、またコストの面など課題も沢山あるソフト食ですが、こうして行事食として提供できるようになったのも、難しく手間のかかる事に対応して下さる調理師の方々のおかげです。これからも給食サービス室一丸となり、美味しい食事を皆様に提供できるように努力したいです。

特別養護老人ホーム　望みの門紫苑荘

# 利用者の笑顔の為に

介護支援専門員　寻田なつ美

昨年より望みの門紫苑荘の介護支援専門員として業務し、早一年が経過しました。

主な役割は、施設入所者様のケアプラン作成及びケアプラン通り提供が出来ているかの確認、検証が主な仕事です。

施設でのケアの特徴は、ご本人及びご家族の意向を踏まえ、施設職員が二十四時間三百六十五日のケアを提供することです。ケアプラン作成により、交代勤務でも個別ケアの具体的内容の共有が図れる事になり、ケアの統一が出来る様になります。

ケアプラン作成では、「その人らしく」が求められています。紫苑荘の利用者様は七〇代から最高齢一〇七歳と三〇歳以上もの歳の差もあり、過ごしてきた環境も様々です。

「歌が好き」であっても、年配だから演歌が好きな方ばかりでなく、クラッシックが好きな方もいらっしゃいます。淋しがりで側に誰かいて欲しい方、反対に人との関わりが煩わすしいと感じる方、又、ご自分の希望や意思を伝えられない利用者様もいらっしゃいます。普段のコミニューケーションの中で生活歴やこだわり・性格を把握し、不安に感じていること等を把握して施設生活が快適かつ、安心して過ごせるように、また、ご家族の代わりとしてご家族のような信頼関係を築けるようにケアする為の初期段階を背負っていると責任を感じています。

昨年度、ご家族の希望もあり定期的な外出の機会を設け、本人の好きな場所、食事、時間を過ごす事により、生活に張りが持てるようになり普段見られない笑顔、表情、会話があり新たな発見の時間でもあります。私達、介護する者として何より利用者の方の笑顔、安心された表情、人生の先輩として経験されたお話を伺うことが活力になっています。

「心が動けば身体も動く」という言葉がある本に書かれていましたが、私もその言葉を心掛けて日々の業務に反映したいと思っています。今後、利用者様の意見を伺いながら、ご家族・ボランティア等の協力を頂き、施設生活が楽しんで頂けるよう企画、試行錯誤を重ねて、利用者様にとってより良い生活の場

として、各部門職員で連携して支援していきたいと思います。

特別養護老人ホーム　望みの門富士見の里

## 在宅と変わらぬ看取りを目指して

介護支援専門員　花澤　光洋

特別養護老人ホーム望みの門富士見の里が開設して今年の七月で四年目を迎える事となります。

この約三年間を振り返ってみれば、無我夢中で月日の経つのが早かったという思いがします。当施設の各部署の尽力もあり、しっかりとした土台が出来上がってきたと実感しています。また原稿に掲載させて頂きました写真は、当施設内ユニットのある利用者様のお部屋になり、利用者様の生活も安定され充実した日々を過ごされているのを感じさせてくれます。

日頃より、施設ケアプランを作成させて頂いていると利用者様に対する各部署のサービス提供内容の充実を感じる今日この頃です。パッケージングされた医療・看護・介護・栄養管理のサービスによって、利用者様の生活の質（ＱＯＬ）の向上が日々、実現されている状況にあります。こうした環境が整備されたことにより、利用者様が在宅で迎える終末期（ターミナル）での看取りを当施設においてもしっかりと対応できると思っています。利用者様とそのご家族様のご意向に沿え、ご自宅で安心した最期を迎えるのと同じ、満足できるようなターミナルでの看取りが行えたのならば、特別養護老人ホームの持つ意味の一つである「終の棲家」の責務を果たせると考えています。

わが国が在宅介護へのシフトを推し進めていますが、特別養護老人ホームでのハード及びソフト面でのサービス提供の充実が在宅での生活により近づいた形となり、国の方針と合致して今後、高齢者社会を迎えられることを望んでいます。

老人居宅介護等事業　望みの門ホームヘルプサービス

## 今、私・私たちに出来ること

介護員　室井　敬子

昨年の九月から紫苑荘から異動となり、早半年が経ちます。

ホームヘルプサービスとは、一軒一軒のお宅訪問、支援内容も道具もお食事の味付けもお宅によって違う為、完璧に把握しなくてはなりません。私に務まるか……とても不安と心の格闘がありました。ヘルパーの先輩方の丁寧な指導もあり、いざ独り立ち！心臓がドキドキして緊張から喉はカラカラ状態……その状況を見ていたヘルパーの先輩が、「いつもの笑顔だよ」と笑顔で声掛けして頂けたおかげで、スーっと気持ちの切り替えが出来ました。

「こんにちは。望みの門ホームヘルプサービスです。」と笑顔・元気な声で訪問。

お客様皆様、暖かく迎え入れて頂き、楽しくお仕事をしています。

今では、お客様からは「元気なお姉ちゃん」の愛称で呼ばれています。

ホームヘルプサービスに従事してとても感じた事は、お客様からの信頼・信用がなくてはこの仕事は成り立たないと思い、常にヘルパー同士、コミュニケーション・伝達事項は必ず欠かさず行なっております。

また、とても感じた事はホームヘルプサービスとは介護の基本そのものです。挨拶・声掛け・体調の変化・コミュニケーション・排泄時の洗浄・ベットメーキング・感染対策・食事の見守り・食事形態などあらゆるものが出来てい

なくてはなりません。お客様が安心・安全・笑顔で暮らせるよう支えていきます。

お客様からは「今度はいつ来てくれる?」「いつもありがとう」「美味しいよ」の声に、私たちの事を楽しみに待ってくれていることを直接感じることが出来、嬉しくもっと頑張ろうと言う元気のお薬を利用者様から頂いていることに感謝しています。今、私に出来ることとは、利用者様の介護状態の軽減または悪化の防止に資するよう目標を設定し計画的に行なわなくてはいけません。自宅で楽しく生活が出来るよう今後も支援に努めていきます。

**♥我がホームヘルプサービスの自慢♥**

元気・明るい・ヘルパー同士仲良し・伝達事項完璧…胸を張って言えます。

これからも、ヘルパー協力しあい利用者様方の笑顔を絶やさないよう頑張っていきます。

老人デイサービス事業　望みの門デイサービスセンター

## 私と望みの門

介護員　川名めぐみ

私が介護の仕事をするきっかけは友人でした。取っつきにくそうな出で立ちの「今どきの若い娘」といった印象の友人が介護をしていると聞き、失礼ではありますが彼女にできるなら私にもできるはず!と某デイサービスで働き出しました。

すると毎日がとても楽しく仕事に行くのが楽しみな程でした。

介護と言う未知の分野で働くにつれ、きちんとした介護技術と知識を学びたいと思い、望の門主催のヘルパー二級講座（介護職員初任者講習）を受講しました。その後、望の門で働かせていただくことになり紫苑荘、富士見の里を経て現在デイサービスに勤務しております。

異動してきて一年があっという間に過ぎてしまいました。

毎月利用者様と共に行事・外出・体験等色々な経験をさせていただいております。

私自身もっと技術を磨き、来所して下さった利用者様に喜んでいただけるよう切磋琢磨していきたいと思います。

介護というとても楽しくやりがいのある仕事に就くきっかけをくれた友人に感謝です。

今後もデイの楽しい仲間たちと利用者様で笑いの絶えない、毎日来たいと思うようなデイサービスを作っていけたらと思います。

訪問看護ステーション　望みの門訪問看護ステーション

## はじめまして

理学療法士　阿部　忠之

三月より望みの門でお世話になることになりました阿部忠之と申します。理学療法士としてリハビリテーションの提供を行います。訪問看護ステーションとデイサービスセンターの勤務となります。よろしくお願いします。

富津市在住で妻、男子二人の四人家族です。

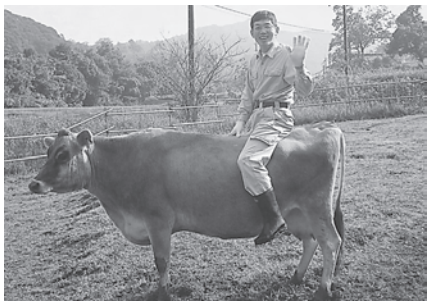
富津と言っても鴨川市に隣接している山間地域でして、同じ市内でも富津市富津まで三〇㎞離れています。富津周辺の平らさ加減と海風の強さに驚きました。

理学療法士として働いていますが、実は新

規就農として十年程前に富津市に移り住みました。現在、家では数頭の牛を飼養しており極小規模ながらチーズ販売もしております（注…現在、休業中）。

牛を飼っている程ですから、生き物は好きです。牛以外にも捨て犬捨て猫だけでなく、捨て雄鶏も飼っています。賑やかです。

夏は牛のための草刈り、冬は家族のための薪作りが趣味です。理学療法士ですので運動は好きです。観戦は野球やサッカーで楽しみます。最近はマラソンに凝っていまして、先日の富津で行われた「千葉県民マラソン」にも参加しました。



自分のリハビリテーションにおける目標は「やれることをやりましょう」、「継続することが大事」であります。特に「継続」は大切であり、「何をやるか」ではなく「どう続けるか」にかかっています。一発でポンと直るリハビリテーションはございません。皆さまの潜在能力を活かすリハビリテーションを心掛けていきます。

私の実感として在宅における介護が増えている気がします。特に訪問看護ステーションにおいては重度の在宅の方が以前より増えている傾向があると思います。望みの門では時勢に対応できるリハビリテーションを行えたらと思っております。

よろしくお願いいたします。

就労継続支援事業　望みの門新生舎

## マザー牧場に行ってきました

職業支援員　三幣　知子

三月十四日土曜日、週間予報は晴れマーク。みんなピクニック気分でいたところ前日の予報は昼頃から雨に。それでも皆「おやつ買った、ソフトクリーム食べる。」と盛り上がったままいざマザー牧場へ。

今回のバスハイクは一年間利用者さんが毎日頑張って働いた証として一人五千円のボーナスが支給され、入場料、食事代、ツアー代をそれぞれが支払い、残りは小遣いという企画です。マザー牧場に着くと駐車場には満車の看板。ナンバープレートは他県のものばかりでどこからそんなに人が集まってくるのかと思うほどでした。

入場を済ませ少し早い昼食へ。春に相応しく菜の花を沢山使った豪華な菜の花御膳。菜の花のご飯に菜の花のお吸い物、菜の花の天ぷらに菜の花の肉巻きフライなど菜の花づくしの料理が並び春の味覚を満喫です。今回はジンギスカンも付いて普段お代わりをしない人までお代わりをして満腹になりました。腹ごしらえも終わり、いざ牧場へ。まずは菜の花畑をバックに記念撮影。黄色い絨毯を敷いたような菜の花畑はどこに居ても良い香りがして今度は一足早い春を視覚で満喫！と思っていたらポツポツと雨が降ってきてしまいお土産屋さんに避難。自分用にマスコットを買う人、家族と一緒に食べるお菓子を買う人、それぞれが財布の中身と相談しながら買い物をしました。買い物が終わるとお楽しみのおやつタイム。外は風も出てきて寒くなってきましたがやっぱり名物のマザーアイスを食べない訳にはいきません。

はいきません。「さむい～。」と言いながらもとってもおいしかったです。

その後はみんなで「マザーファームツアー」に参加。カウボーイのガイドさんとトラクタートレインに乗り牛舎の中や牧場を走り、大きな黒毛和牛や産まれて二週間の子牛の授乳、途中羊に餌をあげることもできました。「かわいい。」という人や逃げ回る人もいましたが一人ひとりが貴重な体験をしたと思います。日本に三頭しかいないとっても巨大な牛が客車のすぐ横に来た時はその大きさにみんな驚いていましたね。ちょっと怖かったですが…。

楽しい時間はあっという間ですが、大切なのは自分達の働いたお金で行ってきたということです。楽しい事の為に働くのではなく、頑張ったご褒美として楽しいことがあるということを皆が感じとれたと思います。

さぁ新しい春を迎えました。新たな気持ちでまたみんなで頑張りましょう。次はディズニーランドかな～！

共同生活援助事業　グレースホーム

## グレースホームのグループ外出

世話人　樋口　千恵

グレースホームでは、年間行事として全員で行く旅行や食事会がありますが、毎月のお楽しみとして四～五人での外出を企画しています。日中活動で新生舎とヨカデイサービスセンターを利用されている方が多く、主に新生舎利用組とヨカデイ利用組に別れて行う日中の外出と四つのグレースホーム毎に夕食を兼ねて夕方に出かける外出があります。「今月はどこに行こう」「今度は何を買おう」「今回は何を食べようか」等々それはそれは皆さん楽しみにしています。各グレースホーム担当の世話人と一緒に外出し過ごす時間は、利用者さんにとって以前家庭で過ごしていた当時の家族との団欒のひとときと重ね合わせているのか特に嬉しいように感じます。

外出の楽しみといったらやはり買い物と外食です。買い物では、あれもこれも欲しくなってしまう方もいれば、あんなに楽しみにしていたのに「やっぱりいらない」と買い物カゴが空っぽの方もいます。エスカレーターに乗れなくて泣いてしまったり、店員さんに無理難題を言って困らせたりと、たった四～五人のグループ外出でも職員にとっては目が離せない緊張の連続の外出ではあります。

一番の楽しみの外食では、日々ダイエットに頑張っている方も今日だけは特別、思い切り好きな物を注文します。もったいぶってデザートをわざと後に注文し「内緒ね」と声をかけた時のみんなの「シーッね」と口に手を当てる姿は本当に微笑ましく胸にキュンとくるものを感じます。

土・日・祝日を使った月に四～五回の外出を企画するのは難しいときもありますが、これだけ楽しみにされていては職員も真剣に頑張らざるを得ません。来月はカラオケボックスか、バイキングか、それともスーパー銭湯で裸のつきあいというのはどうでしょうか。みなさん楽しみに待っていてくださいね。

地域活動支援センター　望みの門ヨカデイサービスセンター

## がんばってます！踏み台昇降

管理者　藤崎　美智

今年の冬は雪があまり降らなかったのですが、その分寒さが厳しかったようです。しかし、今ヨカデイサービスセンターの周りは、水仙や沈丁花、木蓮の花が春の訪れを告げるように咲いています。そして鶯の声も聞こえ

てくるようになりました。

さて、ヨカデイサービスセンターでは、地域活動支援センターとして、創作活動や機能訓練を行っています。今回は、この機能訓練について取り上げてみたいと思います。

体力の維持・身体機能の低下防止を目的に、ラジオ体操・菜の花体操・散歩などを機能訓練として行ってきました。また散歩に出かけられない時は，音楽をかけての室内ウィーキングに取り組んできました。

ヨカデイサービスセンターの利用者さんの年齢は七十三歳から五〇歳で、平均年齢が六十四歳と高齢化してきており、身体機能の低下が懸念されます。散歩に出かけても何でも無いところで転んでしまうことや、ちょっとした段差につまずくなど、脚力が衰えてきた方も見受けられます。歩いていてもなかなか足が上がらない、「すり足」という歩き方になっている方もいらっしゃいます。

そこで、有酸素運動でもある「踏み台昇降」を行ってみることにしました。早速、踏み台をホームセンターにて購入しました。説明書によると、二十分間以上この踏み台を昇ったり降りたりするとのことでしたが、二十分という時間はかなりハードです。そのため室内ウォーキングで使っている『三百六十五歩のマーチ』を流して、リズムに合わせて踏み台を昇ったり降りたりしていただくことにしました。この曲は三分程度の長さです。短いようですが、実際やってみると意外ときつい！「ハアハア」します。激しい運動は長続きしないので、一曲分の三分間行い、休んでまた行うなどし、ひとり一日五回が目標です。ちなみにSさんは十回行っています。体重に大きな変化はありませんが、頑固な便秘が少し解消されたとのこと。また、脚のだるさが取れた人、「最近足の調子が良いよ。」と話して下さるなど、効果は出ているようです。天気の影響を受けず無理をせずに、ひとりひとりに合わせて毎日取り組むことのできる運動、「踏み台昇降」をこれからも楽しく取り組んでいただけるようにしたいと思っています。

…「老いは足腰から」という言葉があります。いつまでも元気で生活できるように、色々な運動を取り入れて、生き生きと生活できるよう、これからもサポートしていきたいと思います。

千葉県中核地域生活支援センター　君津ふくしネット

# 生活困窮者自立支援事業について

相談支援員　北川　広大

千葉県独自の事業としてスタートした「中核地域生活支援センター」は対象者横断的な施策の一環として、健康福祉千葉方式により二十四時間三百六十五日「誰もが、ありのままに・その人らしく地域で暮らすことができる」新たな地域福祉像の実現を目指し、福祉の総合相談支援機能・権利擁護機能・地域総合コーディネート機能を有しています。

そして、平成二十七年四月より「生活困窮者自立支援制度」が施行される事となりました。厚生労働省のホームページによりますと、「福祉事務所設置自治体が実施主体となり、自立相談支援事業、住宅確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業その他生活困窮者の自立の促進に関し包括的な事業の実施」となっています。この制度は君津ふくしネットがおこなってきた総合相談支援に共通する部分があると思います。

また、生活困窮者自立支援制度に先駆け、現在、君津市役所厚生課にて生活保護受給者就労支援業務の委託を受け、就労支援をさせていただいておりますが、当然ながら各々抱

えている課題が異なるなかで利用されている、または支援を受けている関係機関との連携が重要であり、同時に生活に困窮されている方や生活保護を受給されているかたの現状を理解し就労の場を提供していただける企業をいかに開拓する事が出来るかも大きな課題です。しかし、君津ふくしネットには中核地域生活支援センターとして、先輩方が積み上げてきた十年間の経験を活かす事が出来る関係機関との社会的ネットワークは大きなストレングスとなります。被支援者の方々に寄り添い、伴走し、少しでも希望する生活に近づく事が出来るように、職員が一丸となって役割を担っていきたいと思います。

## 富津市富津地区地域包括支援センター
# 繋げる支援

看護員　井上　昭子

地域包括支援センターへ異動となり、あっという間に半年が経ちました。異動の辞令がおりた際、まず、地域包括？どんな事するんだろう？と戸惑いました。実際、何をしているのかご存じない方も多いかと思います。

地域包括支援センターでの看護師の役割はいくつかあり、一つは高齢者の事態把握調査です。基本チェックリストという用紙を使い、市役所から委託された対象者九百三十六名の自宅を一軒ずつ訪問し、生活面や健康面の実態を調査・把握する事です。身分証を身に着け地図を片手に回るのですが、伺った先では宗教の勧誘や押し売りに間違えられる事もしばしばあります。何のために伺ったのか目的を説明し、そこから調査に入ります。介護予防対象者や何らかの支援の必要の有無を判断し、必要に応じ社会福祉士や介護支援専門員に引き継ぎます。支援を必要としながら、行政への相談にまで至らず、悩みを抱えている方も珍しくなく、介護申請代行や見守り対象者へと繋がっていきます。

介護予防教室での健康相談やバイタル測定も役割の一つです。現在三か所で定期的な教室を開いており、今後更に数か所の新規立ち上げを予定しています。立ち上げた後、地域住民が自主的に継続できるよう自主化を勧めていくことが重要となります。

更にもう一つ、今後問題となっていく高齢化問題に伴い、認知症キャラバンメイトという役割もあります。認知症を正しく理解し、時には手となり時には車いすとなってくださる、認知症とそのご家族の応援者である《認知症サポーター》を増やしていくのです。現在全国五百六十万人の仲間がいます。平成二十九年度までに八百万人を目標としており、地域で支え合い住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいきます。

今後皆様のもとにもサポーターのお願いに伺いますので、ご協力をお願いいたします。

## 児童養護施設　望みの門かずさの里
# 就いて一年

保育士　齊藤　奏恵

四月に入職し、右も左も分からない日々を過ごしていたことを、つい昨日のことのように思い返します。あれから一年があっという間に過ぎましたが、日々反省の積み重ねでした。

幼児担当となり、子どもたちのことを知ろう理解しようとたくさん話しかけ、たくさん遊ぶことに夢中になり、諸先輩職員がどのような仕事をし、実務をこなしているのか分からずの毎日でした。慣れた頃、多種多様な仕事をこなしながらも、余裕をもって子どもと接する先輩方の姿にようやく気付き、改めてこの職の多忙さ、広さ、大きさを感じ、多岐にわたるスキルの必要性を痛感しました。同時に子どもとの距離を縮める難しさ、指導的になりやすい自分の不甲斐なさに気付きました。

子どもへの、先輩方の声掛け、接し方に感心しながら、自分なりの接し方に迷い、また職員によって言動や過ごし方が違う子どもの姿に悩みました。そんな中で、相談に応えてくださった先輩職員からのアドバイスは、心に留まり糧となりました。一年が流れるように過ぎ去る日々ですが、子どもたちと同じ時間を過ごす重さ、大切さを噛みしめ、子どもたちの成長、変化をきちんと受け止められるよう努力したいと思います。

就いて一年、気付いたこと、足りないことを自覚し、先輩方ときちんと連携がとれる職員でありたいと思います

充実した二年目に向け、今後ともよろしくお願い致します。

## 乳児院　望みの門方舟乳児園
# 一年を振り返って

保育士　松本　一恵

私が方舟乳児園で働かせて頂くようになって一年余りが経ちました。以前は発達障がい児の施設で働いていたので、私にとっては新たな分野へのチャレンジでした。実際に働くと、初めのうちは業務を覚え、それを遂行することが精一杯でした。しかし、一年が経った今、方舟が大切にしていることを身を以て知り、また私自身が大切にしたいことは何か…を改めて考えることが出来たのではないかと思います。私が今一番感じていることは、日々の観察の重要性です。方舟で生活している子どもたちは不安や不快を言語で訴えることは困難であり、私たち職員が察知しなければなりません。いつもと違うな、何か変だなと感じられるのは、日頃の状態を把握しているからこそ気付くことが出来るはずです。場合によっては命に関わる危険性もあるため細心の注意が必要であると考えています。日々、子ども達と接していると、寝返りが出来た、歩くようになったと目まぐるしい早さで成長していく姿に一人ひとりの持っている力や可能性を強く感じています。乳児期の子ども達は、本来、特定の大人が継続的に関わる中で愛着関係を築いていく時期であり、また生涯にわたる人間形成の基盤が培われる極めて重要な時期と言われています。その大切な時期に一人の大人として関わっているという自覚をしっかりと持ち、子ども達が安全で安心できる生活を送れるよう、日々努めていきたいと思います。

## 児童家庭支援センター　望みの門ピーターパンの家
# 祝 満二歳!! 望みの門ピーターパンの家

心理相談員　新藤　紀子

二年前の四月一日。一本の電話線から始

まった法人の新規事業「児童家庭支援センター望みの門ピーターパンの家」もこの四月で丸二年となります。

開始当初は自分たちも「子育て支援センター」との違いがよくわからず、「なぜ保育士が相談員になれないのだろう?」「なぜ児童福祉司や社会福祉士でなければだめなの?」と疑問に思いました。業務が進行する中で、この相談機関は、児童相談所の役割を補完するためにできた児童福祉施設なのだということが実感されてきました。本来児童相談所は虐待予防に向けた相談業務もありますが、日々増加する深刻な虐待対応のためにほとんど身動きが取れなくなってしまっているのです。当センターに来る相談の中には確かに普通の子育て相談の域に入るものもあります。しかし、多くは様々な相談機関を経てなお問題が解決せず、困り果てて当センターに協力依頼を寄せてくる相談です。

では、他の相談機関にないセンターの特徴とは何でしょう?一つは心理士がいることです。これは関係者が必ず口にする児童家庭支援センターの強みです。来所する子どもやその家庭を心理的な側面から見立て、必要に応じてプレイセラピーやカウンセリング、家族療法を行います。一度で問題が解決することはまれなので、大抵何度か通所することになります。県からの補助金を頂いているため、利用料がかからないということも利用のしやすさにつながります。親子別室にてゆっくりと話を聞いてもらい、自分の子育てや子どもの発達的な側面にしっかりと向き合うことにより解決の糸口が見えてきます。

医療が必要であれば病院、学校にうまく協力要請が出来ない場合には学校との連携、養育者を支えることで安定する家庭もあれば、子どもの発達を促すことで改善する家族関係もあります。一昔前とは違って現在の専門家は、「子どもに問題があるのは親が悪いからだ」とは見ません。家族の構成員全員にとって居心地の良い居場所はどこか、そこに着目すると、全体の歪みが見えてきます。

多くの場合その歪みが子どもの問題として現れてくるのです。大人が深呼吸もできないような環境で子どもがすくすくと育つことはできません。逆に、子どもが伸び伸びと成長できる環境は大人にとっても居心地よくホッとできるみんなの居場所になるのではないでしょうか。

子どもも生まれて一年で歩きはじめ、二年で言葉を発します。これからは私たちも自分たちの担う責任に対して言葉を発していこうと考えています。どうぞこれからまた一年、「ピーターパンの家」の成長を見守ってください。

## 編集後記

漸く寒さも遠のき、南の方から桜の初咲きが報じられる時節となった。自然は本当に偉大である。さて本法人の陰の力である京葉後援会の皆さんのお働きは誰もが感謝していよう。そしてそれは大きく経済的支援と労力的支援とに別けられる。特に後者に於いては会員の高齢化に伴いその活動が昨年の半ば頃より残念ながら途絶えている。今回はいわゆるボランティアについて考えてみたい。

今日的にはボランティア活動に多くの分野がある。サークル活動や行事への参加もあるが、目立たなく労力も不要の「寄り添い」いわば「見守り」だけのボランティアも大変有難い。人は独りでは淋しいものである。どうか高齢者の方も是非参加されてはいかがであろうか。以上非労力ボラのお勧めである。しかも旅費と弁当付きであるとしたらあなたは参加されないでしょうか。

(Y・I)